イベント報告

全日本リレーあれこれ

全日本リレーオリエンテーリング大会　2014 年 12 月 7 日 岐阜県中津川市

コントローラ
小野盛光

日本列島を豪雪が襲い、四国では孤立集落も発生したという 12 月最初の週末に、全日本リレーオリエンテーリング大会が岐阜県中津川市にて開催された。
コントローラ半分、個人の見方半分で３つのテーマを考えてみた。

2014 年 12 月 7 日（日）岐阜県中津川市
全日本リレーオリエンテーリング大会

ナンバーカード

全日本リレーのナンバーカードは数字の羅列でどの数字が何を意味しているか、わかりにくいということを改めて気づかされた。もちろん、その数字の意味することはプログラムで説明してあるが、観客が走者を見て即、クラスや都道府県名を判別することはすらすらとはいかない。

もっと重要なのは選手が付け間違いを防止しにくくすることが重要である。このナンバーカードでもっともわかりやすいのは走順で、色と数字で 2 重に表記されている。さらに、下のように駅伝で使われているようにー（ハイフォン）を入れると一層区分がしやすい。駅伝などでは走順の異なる走者が混じり合うことは少ないが、オリエンテーリングのリレーでは常に一か所に戻ってくるので、走順が一目で区分できることはとても重要である。

全日本リレーのナンバーカード

高校駅伝のナンバーカード

全日本リレーでは選手権クラスでも 10 クラスあり、しかも一般クラスも 4 クラスあり、計 14 クラスあり、これを処理するために、都道府県番号も 2 種類（通常の都道府県コードとそれに 50 を加えたコード）設定するという複雑な形態をとっている。

チーム、走者をすべて数字で表現することは計測処理ソフトを運用する上では便利である。このわかりにくい数字の羅列を理解しやすくするため、下にクラス名と都道府県名を載せている。

しかし折角書き込むならナンバーと対応した書き方が望ましい。写真を例にとるなら、6 の下に MV　281 の下に兵庫あるいは兵庫Ｉの方がよいと思う。

もう少し注文を加えるなら 6 と 281 の間にハイフォンを入れ 281 の 1 の文字サイズを 28 と差をつけて小さくするのがよい。

近年多く使われている E カードなどの電子計測具についても走順とつながるものなら、ナンバーカードにカード番号を記入することで、例えば本来 1 走の人が 3 走に回ったとき、3 走の E カードを使うのかもともとの自分のカードを使うのか迷うことも減ると思われる。ケアレスミスを極力補うような工夫も重要である。また、ナンバーカードに記載された E カード番号と異なる E カードが使われておれば、E カードの反応不良で直前に交換したことも明確になる。

○○リレーオリエンテーリング大会

6-281-3

MV　兵庫Ｉ　3走　77006

下の写真は箱根駅伝である。校名がナンバーカードに大きく書かれ、テレビ観戦者にも沿道の応援者にもわかりやすい。

全日本リレーにこの方式を採用したら、競技者にも、観戦者にもきわめてわかりやすくなる。

また、今大会でもあったし、駅伝でもしばしばみられる光景として次走者が中継ラインに出てきていないことがある。役員が「12313」数字で呼んでも通じにくいであろう。「ME 愛知 1 の 3 走」と呼んだほうが伝わりやすい。

近年ボードで通過走者を表示することはなくなったので、文字表示も一考に値する案だと思う。

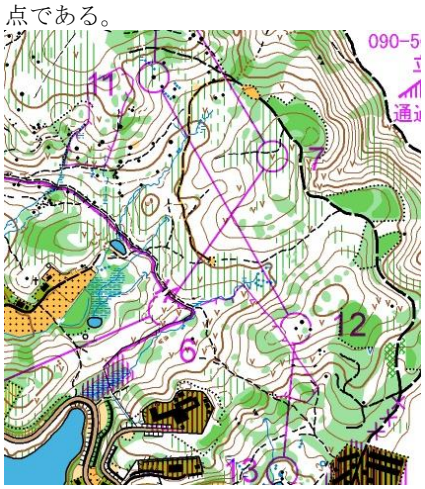
○○リレーオリエンテーリング大会

WV 兵庫Ｉ-3

67813　　77006

通過可能箇所

今大会において地元の方が設置された獣害防止のための電気柵が競技エリア内にあり、一か所競技者を通すため、電線を外して通過可能な箇所を設けた。図の６のコントロール北の通過可能地点である。



この通過可能地点の以外は柵にパープルのラインをかぶせ、かつ選手が通過する可能性のある個所には青黄テープを張った。

コントロール６の次はどのコースもコントロール７の方向に向かうようになっており、通過可能地点を通るのがベストルートと思われるが、競技終了後、通過地点で誘導をしていた係員がテープのないところを通過したと選手がいたとつぶやかれた。

通常なら、テープがあろうとなかろうと通過してはいけない柵と地図表記から気づくと考えるが、見方を変えれば競技者は自分の現在位置を把握しようと努めているが、実はわからないのであって、柵に遭遇してもこれが地図のパープルラインが被った柵と分からなくても不思議がないのである。超えるより回ったほうが早いとか危険がないいう高い柵なら通れる箇所を探すでしょうが、パープルのラインが被った柵とは青黄テープが無い限りわからないのである。迷ってしまったら、通っていけないこのと気付くのはなおさら難しいと思われます。多めに現地での表示が必要と感じた次第です。

以前別の大会で、花壇の跡と思われる箇所が立ち入り禁止のパープルの縦ハッチングになっていたことがあります。地表面の状況はわずかに凸凹がある程度で草丈５ｃｍ程度の雑草に覆われた所で、周囲との区別が極めてつきにくいところでした。しかもコースはこの箇所を横断するように組まれていました。そういう箇所でテープもなく、入った参加者を失格扱いにしていたことに遭遇しました。幸い私のコースは直線状でもそこから外れていましたので、はまらずに済みました。

今回のケースも含め、地図の表記も大事だが、それ以上に現地の表示は大事だと思いました。

誘導ルート

岐阜県協会さんは、今大会に置いても慎重に地元渉外を進めておられました。そんな関係から、図（ランナー目線で次のコントロールを上にしております）の 14 コントロールから 15 へのルートにおいて、集落の中をたくさんのランナーが通るのは、地元の方には煩わしさを感じられるだろうということで、誘導区間を設けました。

99%のランナーは忠実に走っていただけましたが、一部、現地の誘導テープも地図のルート表示も目に入らず南下された方がおられたようです。誘導係員を配置するか、集落に立ち入り禁止表示のハッチングを入れたら万全だったと反省しています。なお、コントロール 14 の位置についても関係者で議論があり、湖の土手の付け根あたりに置くという案もありました。

最後に、大会の運営にご協力いただき、雪を解かす勢いで奮闘していただいた皆様方と来年もお会いできることを楽しみにしています。

（小野盛光）